

下迫福祉社会

Vol. 02
令和2年
10月31日
下迫福祉会

コロナ禍でのふれあいサロン

新型コロナウイルスの影響で、今までの経験したことが無い行動を強いられる中、ますます福祉会において密回避に伴い計画していた行事が実施できていない状況です。その中で下迫地区のグラウンドゴルフ同好会とゲードボール愛好会は毎週各2回活動していき、感染リスクの高いお年寄りも巣ごもり生活になりがちですが、このコロナ禍の中で唯一の交



フリースタイルゴルフ同好会
のグラウンドゴルフ活動の様子
です。



おしべりの合間に
ゲートボール
の活動は人気

流の場であり、ふれあいサロンになっていきます。

下迫の人口178人

少子高齢化が進んでいる中で、下迫地区において2000人を削れて以来急速に人口が減少していき、今年は一七八人になってしまいました。地区外で所帯を持たれる方や嫁が来ていられる方などに伴い新生



児がいなくなり少子化が進んでいます。このまま進めば、10年後には下迫の人口は140人台になりそうです。今後は、村の総出で行事も今までのようにはできません。考え直す時期に来ているように思われます。

長寿のお祝い訪問

当地区には90歳以上の長寿の方が5人おられ、敬老の日には、今宿教育長と三津社協副会長が90歳のお祝いに訪問され、「いつまでもお元気で長生きしてください。お言葉」とお言葉をいただきました。



今宿教育長(中)、三津社協副会長(右)と90歳のお祝い訪問の様子。

コロナ禍とは

最近新聞などでよく目にする「コロナ禍」ですが、訓読みでは「わざわい」とも読めます。「わざわい」は同じ読み方で「災い」は意味が違います。災いは地震や台風などに「阻止できない災害」に使われます。一方、禍は人の手や努力によって「阻止できる災い」に使われるのが一般的です。したがって、「一人ひとりの意識や行動」で「阻止できる」という面もあり、お互いが行動に注意して早く終息してほしいものです。

編集後記

印刷作業時に漢字がわからずスマホで調べながら作成しましたが漢字が書けないことにデジタル社会の弊害と老いを感ずました。近年、デジタル化が叫ばれていますが、アナログ文化も大切ですね。